

寒河江市振興審議会第二部会 経過

1 第1回部会の概要

日 時	平成22年11月5日(金) 午後1時30分
場 所	寒河江市図書館会議室
審議の概要	
<p>(1) 部会長に大沼保義委員を、部会長代理に古沢明委員を選出</p> <p>(2) 事務局より、「暮らしに便利なまちづくり」及び「地域を元気にする産業の創造」のポイントについて説明</p> <p>(3) 委員の意見(質疑)の概要</p> <p>社会基盤について</p> <p>木の下土地区画整理事業の保留地の販売状況はどうか。</p> <p>快適な公共交通の構築について、計画にどう位置づけるのか。</p> <p>安心して快適なまちづくりの目標を建築件数の増加と設定しているが、人口減少が見込まれる中で拡大志向よりもコンパクトシティを志向すべきではないか。中古住宅の活用、空き家対策を推進すべきではないか。</p> <p>市営住宅の建替に際しては、高齢者の集合住宅の要望に添えていくべきではないか。</p> <p>景観形成について、流鏝馬通りの建物の色を統一できないか。</p> <p>水道に対する不満の内容はどうか。</p> <p>産業について</p> <p>農業の販売促進の広域連携を推進すべきではないか。</p> <p>観光さくらんぼ園の接客などをさらに向上させるよう力を入れるべきではないか。</p> <p>観光地を結ぶ道路ネットワークを形成していくべきではないか。</p> <p>慈恩寺をはじめとして寺の多いまちとして、寺を観光資源とした取組みを進めるべきではないか。</p> <p>最上川を観光資源として沿線市町村と広域観光の取組みを推進すべきではないか。</p> <p>市内企業のニーズをふまえた産業支援センターのあり方について、考え方はどうか。</p> <p>インターンシップの効果的な実施方法を考えるべきではないか。</p> <p>工業団地への企業誘致の状況、見込みはどうか。</p> <p>個店の魅力向上のための店主の研修に力を入れてはどうか。</p> <p>飲食業の振興も重要ではないか。</p>	

2 第2回部会の概要

日 時	平成22年11月30日(火)午後1時30分
場 所	寒河江市立図書館会議室
審議の概要	
(1)事務局より、「暮らしに便利なまちづくり」及び「地域を元気にする産業の創造」の案について説明	
(2)委員の意見(質疑)の概要	
社会基盤について	
「暮らしに便利なまちづくり」となっているが、全体に住民の利便性に直結している部分が見えないのではないかと。	
安心して快適なまちづくりの目標が宅地面積の増となったが、既存市街地以外の拡大でも目標達成となり、コンパクトで効率的なまちづくりを目指していることにならないのではないかと。目標が分かりづらいのではないかと。	
高齢者居住に関する施策がないのではないかと。	
都市のコンパクト化の一方で、中山間地域の振興をどうしていくのか、よく考えていくべきではないかと。地域担当制の状況はどうか。	
デマンド交通のアンケート調査の概要、結果はどうだったのか。	
「人にやさしい都市空間づくり」というタイトルであれば、福祉的な政策も含めて記載する必要があるのではないかと。	
協働やグラウンドワークの取組みについては、表彰制度を設けるべきではないかと。	
慈恩寺地区の景観保全については、取組みを早めに進めるべきではないかと。	
道路の広域ネットワークの推進にあたっては、天童・寒河江線の整備を促進していくべきではないかと。	
水道施設の更新にあたっては、経済的かつ効率的な手法を検討すべきではないかと。	
下水道が整備されている地域の水洗化率を向上させる取組みが重要ではないかと。特に低金利のうちに取り組むべきではないかと。また、水洗化率の目標設定をもっと高く設定するべきではないかと。	
今後の下水道整備の方針について、市民から理解を得られるよう丁寧に説明すべきではないかと。	

産業について

農業の6次産業化、農商工との連携は非常に重要だが、どう考えているのか。

地産地消について、積極的に取り組んでいくべきでないか。

TPP への参加により、農業を取り巻く環境が大きく変化することが予想される。個性ある寒河江型農業をさらに振興すべきではないか。

西村山地域の高校再編にあたって寒河江高校の果樹園芸科が左沢高校とのキャンパス制になる案が報道されているが、その動向を見ながら農業後継者の育成を検討してはどうか

寒河江のさくらんぼの振興について、商品価値を上げるのみならず、PRやトップセールス等イメージアップに力を入れていくべきではないか。

観光果樹園については、農業分野の作物の品質のみならず、ホスピタリティの向上を推進すべきではないか。

農業振興、観光振興においては、周辺地域及び仙台圏や遠隔地との広域的な連携の強化を進めていくべきではないか。

関西圏にも姉妹都市を設定するなど全国に向けて広く寒河江のイメージアップ、情報発信を強化し、交流人口の拡大を目指すべきでないか。

中山間地域の活性化については、都会の人を呼び込む観光戦略が重要ではないか。

観光振興の施策のタイトルは、よく検討すべきでないか。

外国人観光客の誘致策を検討してはどうか。

観光客数の目標設定はもっと高く設定すべきでないか。

当地域の高校卒の就職内定率は低調であり、若者が希望をもてるよう雇用の創出に力をいれるべきではないか。

工業団地への企業誘致のみならず、(豆腐や納豆等)食品製造等昔からの寒河江の伝統産業の振興に力を入れるべきではないか。

工業の支援センターについては、広域的な視野でコーディネートする仕組みを検討すべきではないか。また、県内外の学生や企業の方に寒河江の技術を紹介する見学ツアーを検討してはどうか。

産学官連携については、地域の経済に詳しい地元の金融機関とも連携し、産学官金連携を目指してはどうか。

商業については県全体で仙台圏への流出が見られるが、商業振興の施策について取組みを強化できないか。

商業の振興については、車を利用できない「買い物難民」の解消に向けて、公共交通機関を活用したまちづくりを検討すべきではないか。